

血管ハートセンター

■ スタッフ

センター長	伊藤 正明
副センター長	亀井 政孝 土肥 薫

医師	助教	5名
	エコー検査技師	1名

■ 経緯・特色・診療対象疾患

1. 経緯

平成15年5月に「血管内治療センター」として開設した当センターは、平成26年4月より伊藤正明病院長（循環器・腎臓内科学教授）をセンター長（兼任）および阪井田博司（先進的脳血管内治療学教授）を副センター長（兼任）として、新たに「血管ハートセンター Vascular and Heart Center」に改名しました。平成27年4月には循環器内科からスタッフが加わり、現在ではセンター長および2名の副センター長、脳神経外科・小児科・放射線診断科・心臓血管外科・循環器内科の5名の専任助教と、精密エコー担当の中央検査部生理検査技師1名の9名体制となりました。大動脈弁狭窄症に対するカテーテル治療（TAVI）の診療等、診療科を超えた診療の充実に取り組んでおります。

2. 特色

様々な血管病変に対する血管内治療は、細いカテーテルを用いる「体に負担が少ない」低侵襲治療です。全身病である動脈硬化性疾患の場合、同時に複数の診療科による管理・治療が必要となる病態が多く、関連診療科や部門の円滑な連携が必要です。「血管ハートセンター」は、脳神経外科・循環器内科・臨床麻酔部・心臓血管外科・放射線科・小児科・中央検査部などからスタッフを配属し、他の関連診療科・部門にもカンファレンスに参加していただき、総合的に治療方針を検討する全国的にも特色のある診療体制を構築しています。

3. 主な診療対象疾患

主な診療対象疾患として

- 1) 虚血性脳血管障害（頸動脈狭窄症など）
- 2) 心臓弁膜症（大動脈弁狭窄症など）
- 3) 大動脈疾患（大動脈瘤・大動脈解離など）

- 4) 先天性心疾患（先天性心奇形・中隔欠損症など）
- 5) 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞など）

が挙げられます。平成27年11月に大動脈弁狭窄症に対するTAVIの施設認定を受け、従来の開胸術が受けられない高齢・全身状態の不良な大動脈弁狭窄症の患者さんも治療が受けられます。また大学病院など大規模施設ほど対応が難しい「院内発症脳梗塞」の周知や体制整備に取り組んでおります。

■ 診療体制と活動実績

1. スタッフ

【センター長】	伊藤正明 (循環器・腎臓内科学)
【副センター長】	亀井 政孝 (臨床麻酔部) 土肥 薫 (循環器・腎臓内科学)

【専任助教】

三浦洋一（脳神経外科）
大橋啓之（小児科）
山本直樹（心臓血管外科）
佐藤圭（循環器内科）
橋本孝司（放射線診断科）

【生理検査技師】

松田真珠美（中央検査部）

2. 実績

1) 精密エコー

超音波診断装置（LOGIQ S8・LOGIQ E9）・光干渉断層撮影装置（ILUMIEN OCT イメージングシステム 15575-12）を駆使して、高精度の診断やカテーテル治療のサポート・エコーガイド下の先進治療を行っています。

平成30年度のエコー検査件数は、計1072件（外来618件・入院414件）でした。

- ・ 頸動脈エコー：576件
(外来326件・入院250件)
- ・ 下肢動脈エコー：348件
(外来199件・入院149件)
- ・ 腎動脈エコー：119件
(外来89件・入院30件)
- ・ シヤントエコー：29件
(外来4件・入院25件)

他に下肢血管内治療に於いてエコーガイド19件、EVT施行中の血流評価9件を施行。頸部動脈血管内治療に於いて血管内超音波検査17件を行いました。

2) カテーテル治療

動脈硬化性疾患は全身の動脈に及ぶため、各科が合同で検査、治療にあたることもあります。平成 30 年度の主なカテーテル治療件数を下記に示します。下記以外にも各種治療を行っております。

- ・ 脳梗塞・急性期血栓回収療法：21 件
- ・ 脳動脈瘤：45 件
- ・ 頸動脈：21 例
- ・ 心房中隔欠損症：15 件
- ・ 大動脈弁狭窄症（成人）：26 件
- ・ 冠動脈：335 件
- ・ 大動脈瘤、大動脈解離：
 - EVAR 33 件・TEVAR 16 件
- ・ 下肢動脈：145 件

3) 血管ハートセンター合同カンファレンス

平成 26 年 9 月に開始した「血管ハートセンター合同カンファレンス」は、当番の専任助教がテーマを設定し、血管内治療を中心に各疾患や治療法の理解を深め、当院における改善点などを議論する場としています。

平成 30 年度は下記カンファレンスを開催しました。通常は他分野の治療機器に接する機会が殆どないため、このカンファレンスは貴重な経験になります。

第 16 回：平成 30 年 5 月 30 日（三浦）

「循環器内科領域でのステントについて」

「循環器外科領域でのステントについて」

第 17 回：平成 30 年 10 月 3 日（大橋）

「小児循環器領域の最新の閉鎖デバイス」

「左心耳閉鎖の外科治療」

「卵円孔の外科治療」

第 18 回：平成 31 年 3 月 13 日（佐藤）

「心原性ショック症例に対する機械的補助循環装置と左室の unloading について」

「ICU における患者管理について」

4) 血管ハートセンター症例カンファレンス

平成 26 年 5 月に開始した隔週開催の「心臓血管カンファレンス」では、心疾患を中心に毎回 2～3 例の検討を行い、治療適応や方針につい

て議論を重ねました。各分野の専門スタッフから意見を募ることで、様々な条件の患者さんに、より適切で有効な治療方法を検討できる環境が整っております。

■ 今後の展望

2018 年 4 月からは臨床麻酔部から亀井政孝が、循環器内科から土肥薫が副センター長に就任し、関連診療科の更なる連携を目指しております。今後も三重大学の診断ならびに治療機器を駆使して、高度先進医療を円滑に提供できる組織整備を推進するとともに、研究・教育分野の充実も図りたいと考えています。